

性でした。ここでPBCと診断され、入院して治療しました。ウルソ600mg投与でまだ正常ではありませんが、数値は下がってきました。ただ、黄疸がまだ改善されませんので、900mgまで増やそうかと考えております。

◆70代の女性で、眼底出血があり、高血圧でした。お酒を飲まないのにγ-GTPが高かったのでPBCを疑い、抗ミトコンドリア抗体を検査しますとやはり陽性でした。そこで肝生検をしましてPBCであることを確認しました。やはりウルソを飲んでいただいて、数値が正常値まで下がりました。現在、三カ月に一回市民病院に来ていただいて大きな方針を決めて、あとは近所の開業医で治療してもらうという連携バスという方法で治療されています。

最後に

PBCは肝硬変と書いてありますが、決して肝硬変ではありません。また早く診断すれば治療法はすでにあります。そういう意味では早期発見して治療すれば治る病気でありま
す。ALP、γ-GTP、抗ミトコンドリア抗体この三つがキーワードです。

ご清聴ありがとうございました。

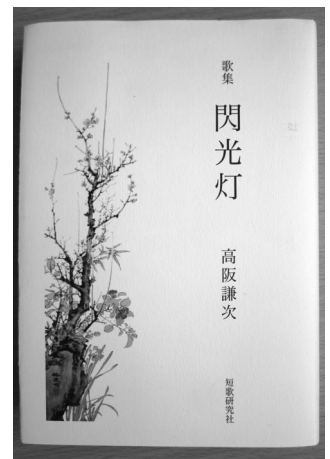
訪問相談の窓口から

平成21年4月ご主人様から「携帯用会話補助装置」を貸してほしいとお電話がありました。奥様が脊髄小脳変性症になり、最近言葉が話しづらく奥様の思いを少しでも伝えることができれば…と言われました。お家に訪問し携帯用会話補助装置を試してもらいました。奥様は車イスに座りとても熱心に携帯用会話補助装置に取り組んでいらっしゃいました。そのお姿が今も心に残っています。

今年に入りご主人が書かれた歌集『閃光灯』をセンターに送ってきて下さいました。6年前に奥様が難病と診断された後、同じ団地に住む方が団地内で開かれている短歌の歌会に奥様を誘って下さったそうです。最初の頃、奥様は参加されていたようですが、そのうちに歩行と会話が困難になりご主人が奥様の詠われた詠草を清書し歌会に届けるうち、ご主人自身が短歌の面白さに惹かれ、そして今回歌集を出版されました。

奥様は8年間の病床生活の末、平成23年お亡くなりになられたのですが亡き奥様への追悼の歌集でもあります。病床生活の中にもユーモラスのある短歌をご紹介しますと思います。

(矢崎)



会話補助器の画面に病む妻の打ちしひらがなの文の残り

△だいすきなあなたにみてもらえてしあわせ△と画面にありぬ妻の告白

文字板に妻が指でさす「うまれかわりまたあえたらならいっしょになろうね」

朝早起勤めの時は寝たきりの妻がブザーで起こしてくれる

△笑点△を見ながら妻が笑ひるる私は楽しき夕餉の調理

わが家事の上達ぶりをほめる妻のその口ぶりに滲む寂しさ

病み哀へし妻に届きたるDMのパンプのタイトル「美しくダイエットを」